

郭氏家廟碑 碑陰 (集字)

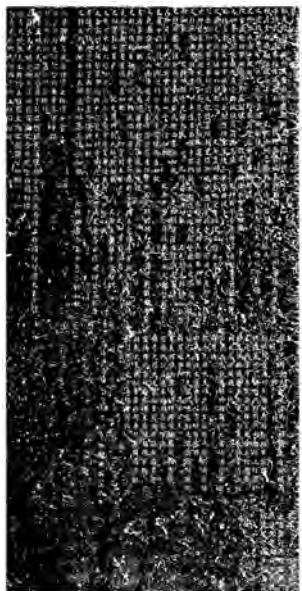
文
封治陽郡王
胡
方
洞中北度
奇節度行營
平生勝事
勝事
車兵馬當

「顏真卿の書」⑨

郭氏家廟碑・碑陰 唐・廣德二年（764年）



郭氏家廟碑・碑陰



碑陰の書は、郭子儀の兄弟・子孫の官職や名前が列記されているだけである。碑陰も碑陽のように碑面が少し破損しているが、碑陽よりは破損は少ない。右頁には、字画が鮮明な部分を選び、碑陽の数文字と比較して並べ、大きさと書風の相違を確認できるようにした。碑陰の書には、行書体に書かれた文字もあり、重厚な楷書でありながら、起筆や終筆に行意を示す部分もある。全体として楷書体で書かれた文字が大部分である。所どころに細い流麗な字画の行書体もある。古くから碑陰の書も顏真卿の五十年代の作とされてきた。今回、紹介するにあたり、子細に確認、集字作業をしているうちに、碑陰の書が、顏真卿の壮年や晩年の顔書とは、大きく異なるよう感じられた。『多寶塔碑』的な用筆もなく、重厚な楷書部分は、顏法的な要素はあるが、もっと別の趣が感じられる。あれこれ思案しているうちに、同時代の蘇靈之の書に近いのではと気が付き、蘇靈之の『田公徳政碑』(740年)と比較して見た。書法的には、重厚な楷書と細い字画の行書とが使用され、碑陰の書法と大変共通している。両碑を集字して、比較対照図版を作成した。大変に用筆、筆勢、書風がよく似ている。この作業から、碑陰の書は、顏真卿でなく、当時の蘇靈之の書法を善くした人物の書ではなかろうかと考えるようになった。読者の皆さんのお聞かせください。

注・「蘇靈之・唐開元、天宝年間の人。唐代の李邕著や顏真卿と並ぶ書法家であり、碑文の書を書くしたと評されている。」
伊藤滋（書斎名・木鶴室）

書道芸術院

令和の群像 (2019)



第70回毎日書道展 「山口草堂句」

「感謝」



江 本 興 舟

明治時代の書家、西脇呉石筆の「千字文」をいつも書いていた父、その姿が私の書の原点です。書道を始めたのは、父の姿が脳裏に焼き付いていたからだと思います。結婚後も子育てをしながら書を続けていた時、あるご縁で白扇書道会を知る事となりまし

た。それは、本院、学生版文字解説者、広瀬舟雲先生との出会いでした。しかし、白扇書道会入門への道は遠く、広瀬先生の通信での臨書指導、様々な講演会への参加、最後に専門学校「書学院」を卒業、それを機に漸く、白扇書道会への入門を許されました。それは昭和の最後の年でした。種谷扇舟先生の稽古は、古典のカリキュラムが提示され、鄭道昭から始まりかなへ、時代

を追って60項目に及ぶ古典の臨書。並行して、展覧会の作品制作に取り組む厳しい稽古でしたが、その時間が楽しく感じられたのは、扇舟先生の書に向かう情熱に引き込まれたからです。古典を学ぶ事が詩文書制作の土台になる事を実感し臨書に励む日々でした。扇舟先生が他界され、詩文書制作に悩み、辻元大雲先生の指導を頂きたく入門。先生の作品制作への的確な指示、そして見事な筆さばきに魅了され、厳しくも温かいご指導の元、書を学ぶ毎日です。常に古典を学ぶ機会を頂き感謝する事ばかりです。ただ、この貴重な研鑽の場での勉強を、作品に生かされているのか、思い悩む現在です。古典で学んだ文字、構成を如何に作品に反映させるか、自らへの課題として研究していくたいと思います。昭和から令和への長きに渡り、書を学び続けられる事に感謝し、再スタートを切りたいと思います。

掲載の作品は第70回毎日書道出品作。漢字とかなの調和を考え書き上げました。

書のひろば

理事長
辻元大雲

第55回書道芸術院単位認定
北関東群馬伊香保講習会盛大に

昨年の高知講習会の後を受けて本年は北関東総局主管にて、群馬県伊香保温泉ホテル天坊を会場として、総勢200名余の参加者で盛況に開催された。8月23日前日夕刻には前泊者が集い夕食を共にして気勢を上げた。24・25両日に亘り実技（漢字・かな・篆刻・現代詩文書・前衛書さらに書写も）、一般教養科目として原拓書道史、書道芸術院史と充実した中身の濃い講習会であった。講習内容などの詳細は次号にて報告される予定。



閉講式 西村氏にも同席頂く

今回講習に毎日書道会西村修一専務理事が2日間に亘り参観していただき、

書道芸術院秋季展審候公募作品
選考 秋季菊花賞など決まる

激励のお言葉、懇親会一次会でも盛り上げて頂き感謝。西村専務理事は3年位前にも参加していただき重ねて感謝申し上げたい。
北関東総局金井如水総局長、西林乗宣顧問ほか皆さんのご協力ご努力に深く感謝。

前衛	井上
原島	恵子
春汀	高橋
(40名)	清琳
漢字	新井
秋季俊英賞	赫扇
漢字	伊藤
新井	明秋

篆刻刻字（薄井東仙）
前衛書（中原志軒）各先生
2020 現代の書新春展出品者

来年1月4日～10日に銀座和光とセントラルミュージアムで開催される「現代の書新春展」の出品者が選考され、和光会場では財団顧問と理事・監事、セントラル会場では65歳以上の審査会員より100名が選抜された。

- ・会場 セントラルミージアム銀座 アートサロン毎日(17人展)
- ・セントラル会場 財団顧問、理事、監事、評議員 今回評議員(20名)の $\frac{1}{2}$ (10名)を指名して大作(25平方尺、5×5尺、4×6尺、3×8尺)に挑戦していただく。
- 院名譽会員、参与会員(選抜)、審査会員(選抜)計142名(出品品点数378点、217名)審査会員候補公募入賞者
- 漢字 池田 等紗 桐林 狐无 永見 史宣 水見 鍋島 弘子 奥村 美楓 宍戸 雲水 現詩 茂木 純水
- ・アートサロン毎日会場 「書道芸術院の書・かな、篆刻、刻字、前衛」展17名。やはり25平方尺の大作に挑戦していただく。
- ・表彰式、作品研究会 午後1時半、展覧会場3階会議室で午後5時半、祝賀会同日
- ・祝賀会 コートヤード・マリオット銀座東武ホテル
- ・「書道芸術院の書17人展」研究会 10月13日(日)午前10時~
- アートサロン毎日 外部講師をご依頼のかな(松井玉等)

日本の自然と書の心 「日本の書」200人選う東京2020大会の

「日本の書200人選」東京2020大会の開催を記念して」（仮称）

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を記念して、組織委員会の協賛を得て開催される芸術文化部門として大会を盛り上げる企画展。

「書道芸術院の書・かな、篆刻・刻字、前衛」展17名。やはり25平方尺の大作に挑戦していただく。

●表彰式 作品研究会 10月1日(土)
午後1時半～ 展覧会場3階会議室
●祝賀会 同日 午後5時半～

・「書道芸術院の書17人展」研究会

アートサロン毎日 外部講師をご依頼
かな（松井玉箏）

かな
(松井玉箏)

作風景をビデオ放映する)
大野祥雲、小竹石雲、小林琴水、
下谷洋子、千葉蒼玄
・ 詳細は今後発表される。

漢字(六)

最首翠風



最首翠風書

書は言う迄もなく線の芸術（書の一回性に基づく）であり、又限られた空間に生を定着させる視覚芸術である。大字系作品は概ね字数が少ないから線の担う役割が大きくなる。が高度な線質を生み出すのは難しい。線の表現は無限である。表現には筆・墨・紙の選択が大切なのは既知のこと。そしてこの工夫が書者の楽しみであり苦しみでもある。

写真の作品を手がけていた頃、現代的な硬質な線の作品を作ったいと考えていた。これ迄の破筆に飽きて来たのもしれない。羊毫

の筆ではドライさは表現出来ない。そこで古い李鼎和の短鎌を使つてみた。語句は自作。墨色は濃墨でなくてはならない。無駄を省いた強い線が当時憧れだった。当然ながら筆に負うところ大である。

大字系漢字作品を志す人への私のアドバイスはとりあえず強い線を引くこと。その為には筆鋒が地球の球体の中心に届くよう急がず運筆すること——と。勿論これが全てではない。さまざまな線や形を生み出し黒と白の世界に遊びたいものである。

現代詩文書(六)

大隅晃弘

漢字(六)

最首翠風

21世紀の書

—私の主張—

現代詩文書では「書き手」が主体となって、素材である言葉に拘り、その素材を通して自分にしか出来ない創造的な書表現に挑むべきだろう。創造的な書表現とは自分勝手な表現ではない。教科書に記されるものではなく、師から教えを乞うものでもない。それは、古典や名筆から得た要素、字源を根拠とする造形感覚、紙面構成や用具用材に対する柔軟な発想等を総動員してこそ得られる複層的な表現だ。書き手が熟慮し、創意工夫と試行錯誤を繰り返して生まれる表現だ。

「読み手」は、その作品に組み込まれる様々な表現の文脈を丁寧に読み取って解釈すべきだ。木を見て森を見ず、解説しづらい一部分を取り上げて「これはダメだ」と手柄を得たようなり顔をするのは如何なものか。太古から続く書の歴史からすれば、現代書への挑戦はまだ始まったばかりだ。書文化を継承することは勿論大事なことだが、御家流や寺子屋のような手習いの延長線上上揮毫、音楽・ダンスとを交え協働性を生かした書道パフォーマンス等、新たな書の表現活動が確立しつつある。こんなものは書ではないと、他人事のように片付けることは簡単だが、「書の守るべき本質」と「書の未知の創造」を見極め、自らの書表現を突き進むことは難しい。



2019 現代の書 新春展(100人展)「虚ろな違和感」

大隅晃弘書

平成十年現代女流書展

を歩むだけならば、書は芸術の域に達することはできない。

紙面に定着した結果としての書ではなく、書作ライブとしての席

上揮毫、音楽・ダンスとを交え協働性を生かした書道パフォーマン

ス等、新たな書の表現活動が確立しつつある。こんなものは書ではないと、他人事のように片付けることは簡単だが、「書の守るべき本質」と「書の未知の創造」を見極め、自らの書表現を突き進むことは難しい。



特集 第71回毎日書道展

国立新美術館 東京都美術館

7月10日(水)～8月4日(日)
7月18日(木)～7月25日(木)

第71回毎日書道展総評

辻元大雲

第71回展は、本年3月末の和歌山巡回展を棒尾として70回展記念事業を無事終了し、2月初旬の運営委員会での運営大綱、当番審査員など主要役員の選考を決定し始動した。本院からも各部署を担い、多方面での活躍が期待された。

4月11日の事務局合同会議では、審査部・総務部・陳列部など各部署ごとの細部打ち合わせを行い、運営の手筈を整え、懇親会では中原志軒実行委員長の力強い乾杯のご発声で賑やかに気勢を挙げた。

5月13日～15日、会友公募、U23作品搬入、同24日～26日の鑑別、6月28日～29日の入賞審査、7月3日の会員賞選考、同4日の文部科学大臣賞選考と順調に進行した。

会友・公募の総出品点数は前年より760余点の出品減となり、出品減少の傾向が中々止まらない現実が厳しく、対応を真剣に考えねばならない状況となつ

た。特に「かな部」「漢字部」「近詩部」といった主要部門での減少が目立つた。

今回実行委員長は財団理事で前衛書部、奎星会会長の中原志軒氏が務め、本院から運営委員として、種谷萬城(漢)、坂本素雪(近)、小林琴水(大)、金井如水(前)の各氏が担当、各展実行委員長には東北仙台展坂本素雪、関西展小林琴水の2氏が重責を担つた。当番審査員、会員賞選考委員などは既報の通り。

全出品者より選考する文部科学大臣賞には財團監事、漢字部、貞秀会会长の赤平泰処氏が受賞された。会員賞は通常体制となり計26名が受賞。本院からは近代詩文書部から宮城県氣仙沼の武山櫻子さん、前衛書部から同じく宮城県石巻の千葉紅雪さん2名が受賞された。東北宮城から2名同時受賞はあまり例がなく、栄誉を讃えたい。千葉紅雪さんは7月21日の表彰式にて受賞者代表として謝辞を述べられ、8年前の東日本大地震での被災経験、復興支援活動などに触れながら、書にかける情熱、今回受賞作にかけた熱意などを切々と述べられ、250余名の会場参列者

の涙を誘った素晴らしい謝辞であった。

今回は特別企画展は見送られ、新しく体験学習として「書のワークショッピング」が土日を中心に、一般・児童生徒などを対象に行われ好評を博した。七夕にちなみ短冊や団扇に想い想いの文字を毛筆で書く楽しさを味わっていたいた。

東京展は国立新美術館会場が7月10日～8月4日まで、前後期計4回の陳列替えを行って展開。東京都美術館会場では7月18日～25日まで、東京展関係の公募・U23入選作品が陳列された。

恒例の理事監事2作目の展示は、本年1月東京国立博物館にて開催された「顔真卿展」に特別展示された、毎日書道会顧問・理事・監事による大作が再度展示され、都美第1室をほぼ一棟分ぶち抜き、広々とした会場で見応えあるコーナーとなつたのが特筆される。

各地方展では作品発表とともに、顕彰式・祝賀会・講演会・席上揮毫会などがそれぞれの地区の企画として行われる。各開催地での本院会員諸氏がご活躍されていることに感謝したい。

東京展以降、全国9会場にて例年通り地方展が開催される。ご支援ご協力ををお願いしたい。

- ・北陸展 8月11日～15日 富山県民会館
- ・関西展 8月14日～18日 マイドームおおさか
- ・中國展 8月20日～25日 広島県立美術館
- ・四国展 8月21日～25日 愛媛県美術館
- ・東北仙台展 9月13日～18日 せんだいメディアテーク
- ・九州展 9月18日～23日
- ・北海道展 9月25日～29日 札幌市民ギャラリー
- ・東北山形展 10月28日～27日 山形美術館
- ・東海展 11月6日～10日 愛知県美術館ギャラリー

各地方展では作品発表とともに、顕彰式・祝賀会・講演会・席上揮毫会などがそれぞれの地区の企画として行われる。各開催地での本院会員諸氏がご活躍していることに感謝したい。

会員賞



近代詩文書部 武山櫻子

この度、会員賞を頂戴致しました事は、ご指導頂きました辻元大雲先生、坂本素雪先生、そして先輩の先生方々、書友の方々、社中の皆さんのおかげでございます。東日本大震災の被災で、折れそうになつた心を励まして下さった書道芸術院の皆さま。書の道を諦めずに筆を持ち続けて来て本当に良かったと思って居ります。

どんなに書いてもいつも納得出来ず、あがいている自分が居ります。今回の作品もやはり違わず、作品を前にすると、まだまだ力不足の感が否めません。これからが大事なのだと痛感致して居ります。

20年前、父が亡くなり、回り道をしてようやく辿り着いた書の道。父の言葉「只管精進」の意味が今ようやく理解できたのかも知れません。その父に叱られないように精進精進…。そして又、楽しく精進精進、これも父なら分かってくれそうです。本当に皆様に感謝申し上げます。

武山櫻子
(近代詩文書部)

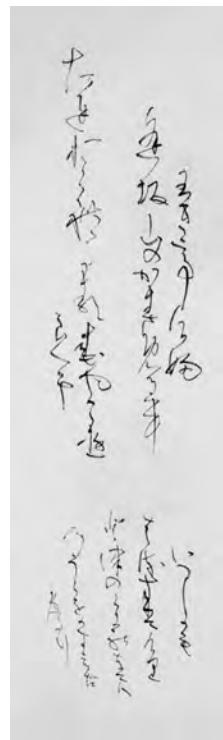
前衛書部 千葉紅雪

令和のスタートの記念すべき年に、会員賞を受賞できたことは、私にとって生きた証のように感じられました。「書があったからこそ生きてこれまで」と受賞の喜びの取材に答えたのも、息子を亡くして20年「いのり」統けながらの制作だったからです。また、東日本大震災の時、高校の顧問をしていた書道部の生徒たちからも、「書くこと」で現実と向き合い、受け入れていくことの大切さを学び、「書」の素晴らしさを実感できたように思います。

受賞作は、「いのり——歩前に——」は被災地の鎮魂と復活を祈りながらの制作でしたが、作品が認められ、私自身も一步前に進めるような気がします。この受賞を、見守り支えてくれた書友、家族、多くのみなさんに「あります」と笑顔で伝えたいと思います。

千葉紅雪
(前衛書部)

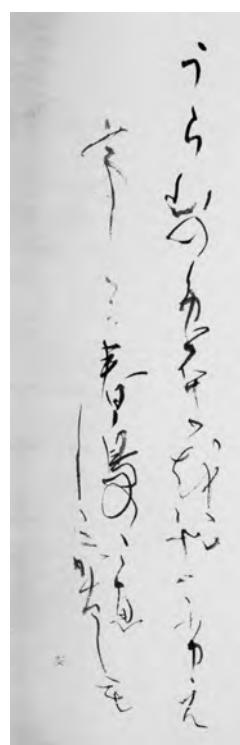
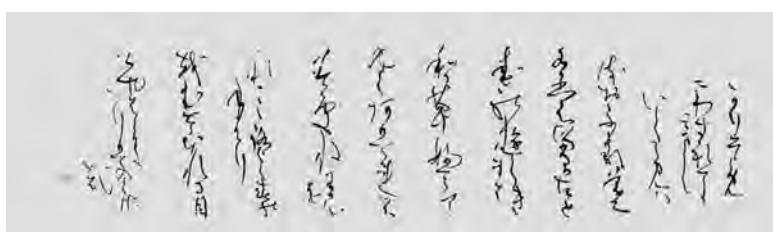
会員賞



漢字部II類 板橋雅邦



漢字部I類 小池朴堂



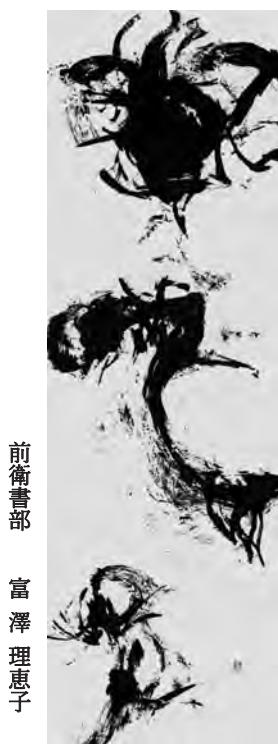
毎 日 賞



近代詩文書部

原博峰





第71回展書道芸術院出品数（公募・会友）

書道芸術院	漢字		かな		近代詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
本年度	417	145	165	488	225	0	57	429	1,926	
前年	441	142	157	440	203	0	68	419	1,870	
増減	-24	3	8	48	22	0	-11	10	56	

第71回展書道芸術院受賞者数

賞名	漢字		かな		近代詩文書	大字書	篆刻	刻字	前衛書	合計
	I	II	I	II						
会員賞					1				1	2
毎日賞	2	3	1	3	3	2			3	14
秀作賞	5	5			5	7	5		1	7
佳作賞	4	11	3	8	13	8			1	11
U23毎日賞										
U23新銳賞					1					1
U23奨励賞		1		1	2	1			2	7
合計	11	20	4	17	27	16		2	24	106

秀作賞受賞者

佳作賞受賞者

・漢字部（I類）

一森映泉 山崎皇月

・漢字部（II類）

森田藤谷 種谷森城 堀田白扇

・かな部（I類）

武藤房枝 逸見玲子 真下美佐代

・漢字部（II類）

上田琴秀 平野笛舟 岡田豊礼
新行内芳蘭 諸岡百雲 木村香翠
佐藤武美 谷田熾義 高木昭華
小泉潤 加藤紫翠

・かな部（II類）

山田靜枝 大崎香織 高橋佳子

・近代詩文書部

勝亦真子

・近代詩文書部

高橋はる江 清水節子 戸來益江
齋藤杏邑 清水幸子

・U23新銳賞

高野天音

・漢字部（II類）

齊賀裕美 栗原由紀 神本星光
柳川蝶月 相沢正華 浅利雪蘭
新田雄山 菱沼範子 鈴元博貫
白井真理 伊藤瞳 佐藤弦佳

・漢字部（I類）

・中里智香

・かな部（I類）

高野天音

・近代詩文書部

佐藤伶奈 熊谷翔
佐藤明洋 松村美保

・漢字部（II類）

・近代詩文書部

・刻字部

佐藤紫水

・前衛書部

工藤史音 栗原りか 松永杏苑
原島春汀 大友紅薺 廣瀬幸枝
地頭汀仙 加藤鶯流

・刻字部

加藤鶯流

・前衛書部

小島遼平 須貝楓子

・前衛書部

木原尚子 工藤山房 野口元道
大村直子 佐々木紅楓 長澤紅苑
阿部俊吾 佐藤右琴 高橋清琳
林美奈子 梅山久子

・U23新銳賞



毎日賞受賞のみなさん



下谷常務理事開会のあいさつ

令和元年度 新審査会員作品

II

中島 恵華（選）・小林 純子（か）・戸來 益江（か）・岩崎 陽光（現）

中島 恵華
(群馬)

「送金華王明府」



輸金華惠王國勢ノ御前
陶金萬葉序 沈故錢萬葉
唐山詠書御名白不時開引
東騎升か古銅象氣火

審査会員昇格にあたり、心を新たに精進してまいります。ご指導下さった先生、お世話になりました当番審査員の先生方にあらためて感謝申し上げます。

作品制作に際しては、軽快にして明るく爽やかな印象を感じられるよう、行間に意を用いました。
(恵華)

戸來 益江
(群馬)

「萩の花」

この度は、審査会員にご推挙頂き誠に有難うございます。恵まれた環境の中で、これまで書道を続けてこられましたのは、下谷洋子先生のお陰と深く感謝いたしております。書に対して真摯に向き合い、かなの優雅で魅力ある書を目指して、研鑽を積んでいきました。

(益江)

小林 純風
(岡山)

「やすらはで」



のねみうさぎ
うさぎほぐれ

漢字作家として院に入会し、活動中に下谷洋子先生の素晴らしい線に魅了され入門させていただきました。流麗な流れを平かな・漢字・変体がなを織り交ぜ、どう演出するか。今作品も、同化していく総ての線に、歌に登場する女の情をどれほど表現出来たかなと思いつつ筆を置きました。
(純風)

岩崎 陽光
(宮城)

「馬場照子の句」

この度は審査会員にご推挙頂き有難うございます。坂本素雪先生はじめ書友の皆様の日頃のご指導に深く感謝申し上げます。

現代詩文書を書く時は、線質・余白・潤渴などを研究し追求するように心がけています。これからも熱いこころを持続して精進して参ります。

(陽光)

顏氏家廟碑（唐）顏真卿 ③

漢字研究部臨書課題 || (半紙普通判・縦使用) 左記の法帖より何文字臨書してもよい。

特別研究部臨書課題

||

(毎日展公募サイズ以内・縦横自由) 当該古典の左記掲載部分以外も可。

(掲載図版70%に縮小)



解説¹ 颜真卿 (709~785) は

学問と書法で称された名家

の出身で、安禄山の乱 (756

~763) で平原城を死守し、

玄宗皇帝を大層喜ばせた。

唐時代 颜真卿の書における評価は後世ほど高くなかつたが、北宋の欧阳修 (1007~1072) が、忠義の心の反映をその書に認めて顕彰したことにより、高く評価されるようになった。²

颜真卿の曾祖父・颜勤礼は篆籀に巧みで、祖父・颜昭甫、父・颜惟贞も草隸を巧みとした能書家の血筋で、

颜真卿は少壯の頃から書を得意とし、後に張旭 (唐・生没不詳) について書法を学んだ。初唐の欧阳詢・虞世南・褚遂良とあわせて「唐の四大家」ともよばれている。

今年1月、東京国立博物館特別展「颜真卿—王羲之を超えた名筆!」が開催された。³ (1/16~2/24) 台北故宮博物院の超一級文物である「祭姪文稿」をはじめ、夥しい数の颜真卿の書が展示され、観る者に感銘を与えた。

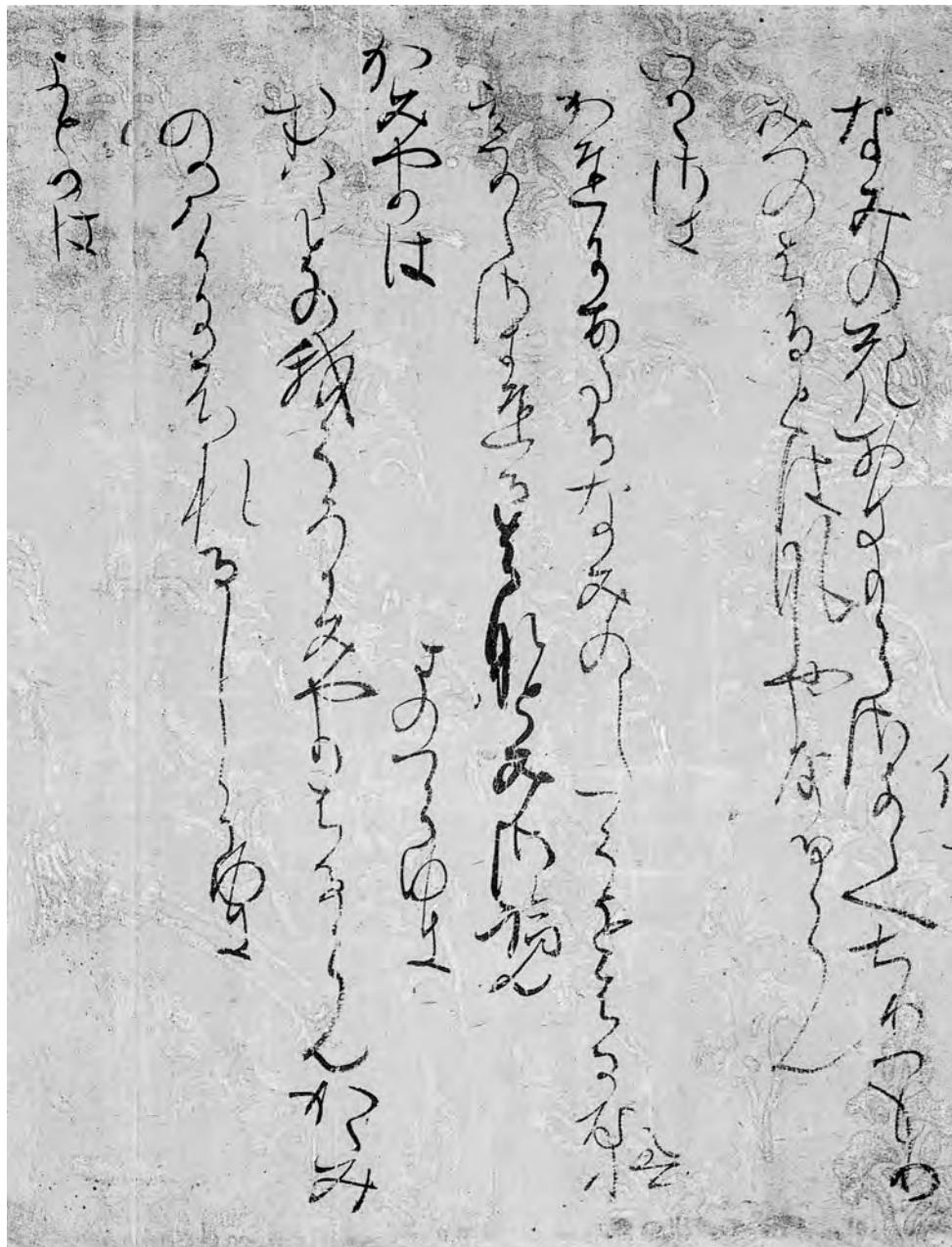
(編集部)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

※落款を必ず入れる。署名、もしくは〇〇臨(押印のみも可)

特別研究部臨書課題

毎日展公募サイズ以内・縦横自由 上記の掲載以外も可。
(半紙普通判(料紙可)・縦長に使用)
別紙を裁断して貼付も可。半透紙は半紙サイズに切って使用のこと。
左記の古筆の掲載部分より歌一首以上を書く。(全臨も可)



(個人蔵)

〈解説〉 本阿弥切の書写形式は自由で、変化に富んでいる。その多くは和歌1首を2行で書いているが、1行1首書きや巧妙な散らし書きもある。あるいは和歌1首書き終ったあとに数字分闕字(欠字ともいう)を置いて、その下へ次の歌を書き始めるスタイルなどは、他に類を見ない。

本阿弥切と同筆の古筆は知られていないが、寸松庵色紙(伝紀貫之筆)・関戸本古今集(伝藤原行成筆)と書風が似通うところがある。また、本阿弥切は「古今和歌集」の平安時代の古写本として、高野切(伝紀貫之筆)などと並び書道史上貴重な遺品である。

(編集部)

※古筆は原寸(以上も可)で臨書します。

よみ
なみの花おきからさきてちりつもり
みづのはるとは風やなるらん
いかさき
いかさきぢるはなとみざ覽
かぢにあたるなみのしづくをはるなれ
い車可
いかさきぢるはなとみざ覽
かみやがは
むばたまの我くろかみやはるらんか
どみ
のかげ介爾不
むばたまの我くろかみやはるらんか
よどかは

（※掲載図版は原寸）

種 谷 萬 城

偶然欲書
(偶然書せんと欲す)
(孫過庭「書譜」)



萬城書

書体=自由



偶然欲書 よみ (偶然書せんと欲す)

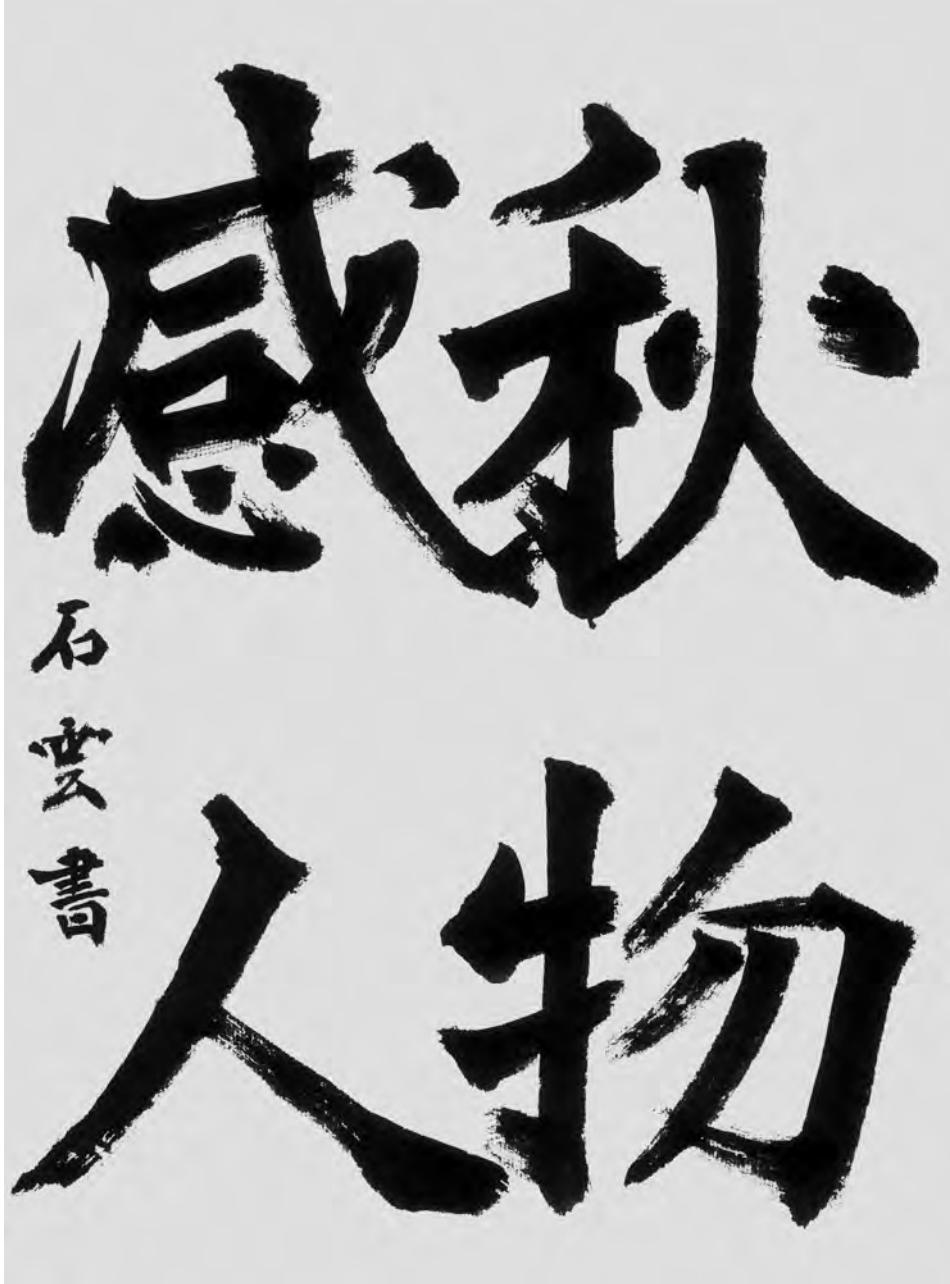
書譜に「調子の良い時の条件を五つ挙げ、その一つに、この言葉「ふと書きたくなる」があります。今月は篆書で、吳譲之を参考に、長脚の小篆で書きました。篆書(甲骨文・金文・小篆・印篆など)作品の制作には、専門の字典で校字し、藏峰・中峰の筆法、左右相称・等分割など、楷行草書とは異なる書法の学習が必要です。古人の造字感性に触れ、漢字の成立を考察できる篆書の学習は大切です。左は、金文を参考にしました。

習い方解説(六)

小竹石雲

秋物感人
(陸放翁)

筆



六朝を代表する、張猛龍碑、龍門の造像記などの力強さ、逞しさを主眼において書いてみました。前回の鄭道昭風の曲線的な粘りのある線質に対し、今回は直線的で、角ばった書き方が大きな特徴です。華北の風土性や民族性を反映した素朴で剛健な龍門の造像記風と一段進歩した緊張感漂う暢達觀を見せた張猛龍碑をミックスした感じで仕上げてみました。

〈注意点〉

- ・骨格のしつかりした線にする。
- ・起筆の鋭い打ち込みがそのままの力で持続できるためには、筆先の力が緩まないことです。
- ・小さなことに気をとらわれず大膽に運筆してみましょう。
- ・筆は羊毫筆を使用しましたが兼毫でも良いと思います。

かな規定 初段以上【十月十五日締めきり】用紙 半紙普通判(料紙可)

奥田瑞舟選書

習い方解説 (三)

奥田瑞舟

ひさかたなかにあきのあみぢ
いろの千しほや望月の影
(武者小路実陰)

久方
なま
秋の紅葉

すかいろも
すや望月
かみ

正統

創作

かなは連綿すると、右寄りの流れになります。起筆や終筆の位置など、構成上から流れはごく自然なことです。書き手の意志によって、流れを修正したり、リズムを変えたりして多彩にすることもありますが、左下へ流れることはあります。

連綿するほどよいのではなく、敢えて連綿線をきつて、空でつながっていることも表情を豊かにします。これを「はなち書き」といいます。

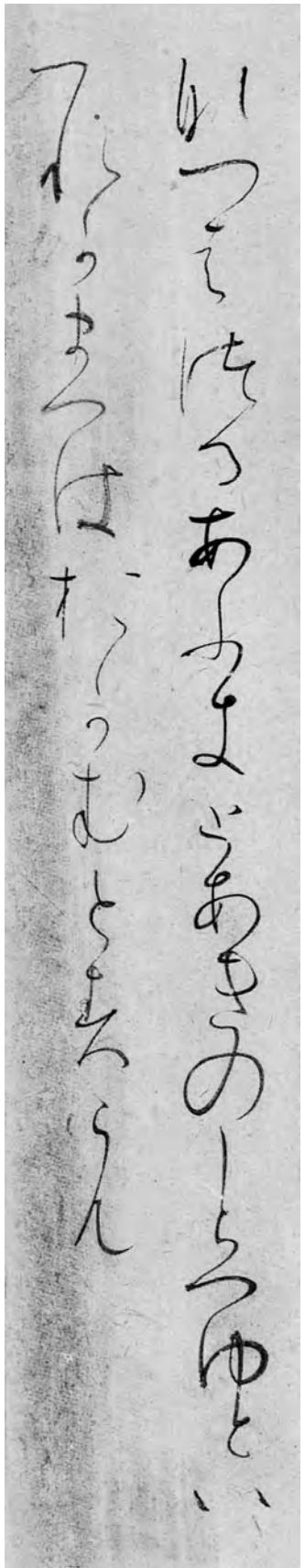
書き急いで連続で連綿すると、行の流れも線も単調になります。転折でしっかり息つきをして、線に張りや時間差を感じるような作品にしてください。

よみ方 久方の中(な可)に(耳)も秋の紅葉する(流)
色(いろ)の(農)千しほや望月の(能)影(か希)

かな規定 秀級以下【十月十五日締めきり】用紙 半紙タテ $\frac{1}{2}$ (料紙可) (たて32センチ・よこ12センチ)

(掲載写真の和歌を臨書する。または部分(2字以上の連綿または単体を含む)を臨書する。)

粘葉本和漢朗詠集
(掲載写真拡大120%)



よみ方 な(那)つは(者)つ(往)るあ(ふ)ぎ(支)とあ(き)のし(う)つ(ゆ)とい
づれか(可)ま(い)はお(於)か(可)むとす(春)らん

かな条幅規定【十月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切(料紙可)

小島孝予選書

習い方解説 (三)

小島 孝予
(河合曾良「奥の細道」)

よもすがら秋風聞くや裏の山



松尾芭蕉「おくのほそ道」で、
芭蕉から旅の同伴者として選ばれ
た弟子、河合曾良の句です。

1行目の「聞くや」を自然な流
れで右へ寄せ、そこに2行目を寄
り添えることで一行に見えるよう
にまとめました。連綿線は多すぎ
ないようにして意連を活かし、全
体の流麗さを表現しましょう。

よみ方 よもす(才)が(麗)ら秋(秋)風(可熱)聞く(久)や裏(う良)の(能)山

創作

*タテ形式に限る

漢字条幅規定 初段以上【十月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

名越蒼竹選書

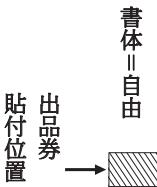
名越蒼竹選書

習い方解説 (六)

名 越 蒼 竹



荒山秋日午 獨上意悠々 如何望鄉處
(荒山秋日午 獨り上りて意悠々) 西北是融州
如何ぞ郷を望む處 西北は是れ融州 (柳宗元)



今月は横形式への挑戦です。縱の流れは当然ながら、行数が増え分、各行間の響き合いが大切にもなります。徐渭のように行間をほとんどとらずに空いたスペースを次々と文字で埋めてしまうこともありますが、ここでは一般的な方法をとりました。時折長い横画を配置することで、行の響き合いを演出することができます。

*ヨコ形式に限る

漢字条幅規定 秀級以下【十月十五日締めきり】用紙 小画仙紙半切

半田藤扇選書

習い方解説 (六)

半 田 藤 扇



中秋雲淨出滄海 半夜露寒當碧天

(中秋雲淨く滄海を出で 半夜露寒く碧天に当る)

書体=自由

今回が最終となりました。行・草の組み合わせに挑戦してみましょう。単体文字にならず、3文字、2文字とつづく息の長い一貫した作風を望みます。潤滑には特に注意して、太細の筆法にも心がけてください。

筆は、少し硬目で穂先の利くものを使用しました。

習い方解説(六)

川村美泉

子供がからうたあとからは
まつ、大さくなづか月さま
小鳥が夢を見つづくは
空にはえええええ金の星
唱歌、夕焼け小焼け、美泉書

私が担当させていただく最後の月となりました。半年間、共にペン字の勉強をさせていただきましたことに、心から感謝を申し上げます。

私が高校生だった頃、担任の先生に暑中見舞いをお送りしようと、淡墨をすり、当時好きだった隸書体を用いてはがきを書いたことがあります。今、高校生たちに聞いてみると、「メールがあるき、ペンでも書かんよ。」と素っ気ない返事が返ってきます。

時代の流れとは言え、やはり、私たちは、時間をかけ、心を込め、手を使って丁寧に書く文字を若い世代に伝えていかなければと思います。

最終回は、「夕焼け小焼け」。あかね色に染まった夕空、そのあとの静寂の星空を想像しながら、書いてみましょう。きらきら金の星が、皆様にしあわせを運んでくれますように。

※落款(自分の名前)を必ず入れる。

用紙=はがきの大きさ(14.8×10cm)、白色のもの、黒インク使用のこと

書体=自由

今月の

ホープ作品
各部総評 No. 699

漢字部 師範 宮本 月琴
リズミカルな運筆が紙面に動きを与えるバランスよくまとまった作。線の深味がほしい。

◎漢字部総評 上級5字句表現草書の字形にやや難ある作散見。下級楷書表現含め字形の確かさを基礎練習で培う努力を。(大雲評)



かな条幅部 師範 鶴田 恵子
手本の解説をしっかりとし、丁寧にゆっくりと運筆する姿勢が尊い。徐々に自分のリズムを入れたい。

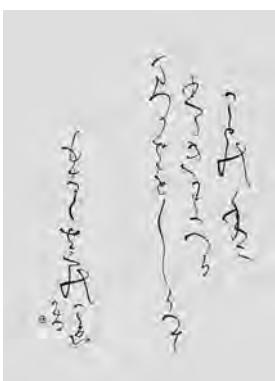
◎かな条幅部総評 特に月能の理解不足が目についた。変体がなは崩し字の表現の幅が広いので必ず基本形を確認のこと。(洋子評)



漢字条幅部 師範 田中 岳舟
漢簡を集字し、大小、細太、疎密の変化を加えた構成が巧み。柔毛での渴線も冴えている。快作。



◎漢字条幅部総評 上級は行草書作品が多く見られた。草書の字形の危ういもの目立つ。着実な校字の上で制作して欲しい。(萬城評)



かな部 師範 佐藤 詠子
穏やかな墨色、やや大きめの字でゆったりとした運筆は分野を超えて表現の魅力を伝えて秀逸。

◎かな部総評 極端なデフォルメによる誤字多く残念。手本は鵜呑みにせず、十分に研究して利用することが上達の近道です。(明子評)

前衛書部 特選 長澤 紅苑
全体を強靭な線により、空間の胆な表現と主張がほしい。更なる挑戦に期待する。(仙岳評)

あーた浜辺とくすよえば
昔の「ことぞしのはー、
風の音よ、雲のさまと
寄する波し貝の色も
唱歌「浜辺の歌」恵子書

ペン字部 師範 鶴田 恵子
何より布置が見事で、行間の余白が美しい。清澄な筆線が冴え格調高く、技術の高さが窺える。

◎ペン字部総評 行書・かな連綿理解することが大切です。(紅葉評)

作品が大半。流れの美しいかなは、連綿の方法と休みどころの要領を理解することが大切です。(紅葉評)

今月の

特別研究部優秀作品(特選)

選評 辻元大雲 山口仙草 三浦鄭街 平川峰子

現代詩文書
(大雲)
長島 僊雨



145×66cm

(仙草評)

◆ 大字小字の組み合わせで変化を感じさせる作。墨色がやや甘いのが惜しい。暢びやかさを買う。

(大雲評)

◆ 作者の言葉を理解し表現力豊かな充実した作となった。大字と小字の空間構成が見事。墨量に配慮された。

◆ 一筋の一が単純にならないよう工夫した様子が伺える。墨量の多い字が渴筆部を生きさせている。

(峰子評)

◆ 大胆に責めた作品、特に小字が上手く収まっている。芦田淳の詩の内容が本人の思いの強さを感じる。

(鄭街評)

「芦田淳の詩」



175×57cm

森田 藤谷書

漢字 (もくせい) 森田 藤谷 「山中答俗人」

長島 僊雨書

◆ 行間美しく余白を生かした細身の作となつた。いつもより力みを抑えた所が軽やかで成功したようだ。

(鄭街評)

◆ 結体を工夫し、文字の大小をどう組み合わせるか細太、潤渴の変化のつけ方にも表現力を感じた。

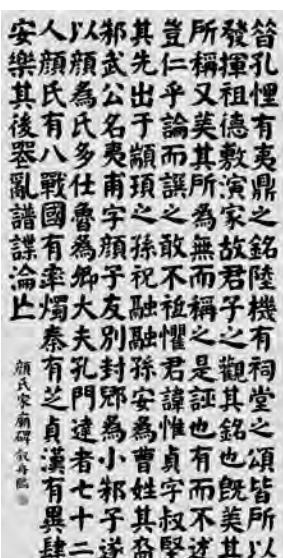
(峰子評)

◆ 手馴れた筆致で潤渴のバランスもよく、安定感のある作となつた。

(仙草評)

(峰子評)

臨書 (千葉)
竹浪叙舟



135×68cm

「顏氏家廟碑」

◆ 原碑の特徴をよくとらえ、顔法の妙味を發揮して作。着実な表現技術を買う。

(大雲評)

◆ 顔氏家廟碑を全紙に9行、154文字の力投。最後まで呼吸乱れず、根気の強さに敬意を表します。

(鄭街評)

◆ 整然と並んだ顔法の文字群。総字数2800余字の巨碑の雰囲気を見せてくれたことに感激。

◆ 顔法による堂々の臨書作。原碑の特徴である「蚕頭燕尾」を適確に捉え、全紙にまとめてあげた力作。

(仙草評)

◆ 小気味よいリズムが紙面全体に動きと変化を与え、爽やかな作となつた。筆脈の流れがやや不足か。

(大雲評)

漢字研究部
(顏氏家廟碑)

選評 小浜 大明

今月のホープ作品



関 谷 明 美



漢字研究部 特選 関 谷 明 美

顏真卿特有の筆法で書かれた顏氏家廟碑は、厚味のある深い線で堂々と構えた力強い楷書です。その特色を見事に表現した秀作です。線質、用筆、結体共に良く、大胆な中に落ち着きと品格を感じさせます。

◎漢字研究部總評

氣合いを感じさせる見事な作品が多數あり、審査に苦慮しました。反面、筆法を正しく理

解されていない作品も少なからずありました。例えば、右肩の転折や趯(はね)を書くとき、筆を完全に離して書いた作品や右払いの筆法の誤り等が気になりました。又、「之」の起筆の碑が欠けた部分を忠実に書いてしまった作品も少なくありませんでした。不明な点は字典を生かして研究してから書くことをお勧めします。

かな研究部
(本阿弥切)

選評 佐藤希雲

今月のホープ作品



浜野永篁

◎かな研究部総評
自分なりのテーマを持って書かれている作品は好
く表現できている。転折のキレも良く、打楽器的
なリズムが心地よい。字形の観察をさらに精密に。
感が持てる。「行目下部の「ぬれ」の連綿がおかし
いものが多くた。字典で確認されたし。

良恵和	幸幸玉	と清優	美哲悦
泉美子	雲泉江	み	艸子子

澄八正松紅
春街華村瑠秀
宇植岩井石青藍作
春紅祥芝津玉白
華雨園雲子枝球

こ水う誠大誠正桜蘭石大菊蠟樹清大A高水大蘭蒼や菊た
こ轡和華草鼎習雲月葵原月雲!崎海雲鼎陽ま月か
加永飯石黒鶴岡苗林松三新後葛境堀楓松根楓川込田島浜野
藤井高柳崎田代丸浦井藤野切江浦岸貝崎山玉
翠悦幹甘竹琴麻佳雅愛道恵良恵和幸玉み清優美哲悦永
陽生生雨葉舟美惠子石子子泉美子雲泉江子艸子子子

京黎高蘭中上泉遊
橋明崎鼎川泉会雲
大立紅説高竜玉誠澄竹書春秀た大八春芳潮黎広大
雲精風韻真泉川和春原游汀歌か拙街汀蘭音明島雲

吉山矢森三早永長中積千田竹武高閨新新代庄下椎猿佐佐齊小川河小大
田中口田部田井江田田畑内井橋根谷行田司田名渡藤々々藤藤林本合大
紗寿美内加木木
佑和登直蒼時久よ雅代翠瑞葉咏代光簞陽美淳江杏桃南和愛唯昌
子江子舟朗子仙子雲香子江泉子光華子艸子子右子恵子彩邑奈京敬実菜子

高筆陵入
青會木運
知勇介

明東華幸無椿竹宗澄前京東玉青澄上天千A一泉玉旭澄紅
漢伯仙扇門翠美苑春橋向松蓮春璋葉I宮会松老春瑤
吉山山山安八茂深春春島長沼浪中中戸寺鶴辻田高高須鈴嶋柴櫻坂後小草木木岸菊葉菅金小小岡樺石石安青
木木
鶴真美梅清沙紀絢清勝聯芝千童秋ヶ星博恵雅洋耶真幸香睦称洋龍里喜晃眞順輝民白泰静秋加萩輝藤和洋玲裕莫
紀楓香玉子水洗美春香峰心花子舟子裕子衣薰苑舟心子子貞美秋代華子子雅泰代美都光峯瓊子子子子鄉

白黎墨土富扇明八八富春竹稻澄樹京高春大竜文千附祥生大華白広華旭青青梅四渡白楓
露明綠陰氣貴筆漢生雲貴汀美毛春原橋崎汀雲泉筆葉中紫大阪仙扇島祥老峰蓮桃枝辺驚会
春鈴鈴杉菅新島篠七佐佐櫻齊齋紺近小小高吳熊久國北岸菊神川加加鹿大大大江梅梅岩今伊市板石五飯飯飯安荒天東
原木木田原條田條々々田藤藤野藤峰原武谷保峰村又本地田本藤瀬島野西友沢口田津木測村藤川垣渡十田泉島藤木川羽
慶姫節祥昌三美美裕芳和智美翠遊松加馨玄豊紫智琴志春萩惠典紫雅晴裕朱一四淳茉栄代董祥貴壽チ青翠佳光洋律代孫裕惠花
子凍子凍子郎子子美子舟子香山春子城美蘭美翠子峩茜水子仙芳美子星美峰子悠子山苑泉子子子鳳徑采彩子子子功泉子子

芳昌も琇竹蓮桜や高玉桜あ松春生硯菊声白幕長澄生上前白若誠有大長椿
選蘭苑く頽美紅草ま真川草か村汀大水月香露張月春大泉橋露松和秋阪月翠
渡吉吉横遊山山谷守本茂富宮宮宮松増増牧本別古藤福福廣平平岠原原林長野丹西中中中富戸渡利樋筑田高高草木千代
名氏名略邊田種川山佐田口岸知友吉木野下澤崎内村島田田野多府谷江原田地山山尾島澤谷口羽山村村林田部子守泉井村原橋藤
信翠藤幸蘭紅美律余美津明翠達樂草英成陽翠佳華清和信美し里流美だつほ春典美久美蕙葵笙一清萩藤紀佳雪宏春貞美松子代
溪綾玉惠舟雅子子美子子香芳枝翠秋明子舟子秀次枝子子子萌源幸子る汀子子子子子子龍泉琴香形風子理菴子華子好美子

かな研究部成績表

かな研究部 特選 浜野永篁

佳作 60篇